



発表会場の入り口風景



発表会風景



発表会場の入り口風景



(左から)Iさん・Bさん・Nさん・Yさんと舞妓を披露



12月27日に開催された東京区部と東東京の本部発表会風景

統括  
実施型

伝統文化親子教室事業  
優良事例調査  
①

### 一般社団法人日本のおどり文化協会の理事長にお話を伺いました

■ **主な活動について**  
合宿事業やイベント事業、そして子ども向けの教室として「伝統文化親子教室」を全国で展開し、若年層に対する日本舞踊の普及に力を入れています。現在までに3500名を超す生徒さんが参加してくださっております。その後も継続して学べるようにと、サークル事業も創設しました。

■ **主な告知活動について**  
フライヤーやパンフレットを、公共施設や近隣の小学校に配布しています。日常の活動や稽古風景などは『Facebook』でも随時UPしています。

■ **自治体との関わり方について**  
各自治体主催の文化祭やイベントに参加をしたり、自治体と連携してワークショップや和身体験、イベントなどを企画することもあります。

■ **本部と各支部との関わりについて**  
本部は、組織全体の活動を円滑に進める為に、各種イベントを企画し提供しています。支部は、参加者の募集や地域での広報活動を担当しています。

■ **各教室のカリキュラムの決定方法（カリキュラムの工夫について）**  
振付や音楽など、講師によって表現が変わらないように統一しています。その代わり、生徒の技量やその地域のニーズに応じて演目を決めしてもらい、その構成は任せさせていただきます。特に体験教室では、簡単でわかりやすい演目を中心にしています。

■ **コロナの前後で変わったこと**  
海外イベントや国際会議等への出演で大きくインバウンドに依存していましたが、全てなくなりました。伝統文化の灯を消してはならないとの思いで何とか事業を継続して参りましたが、対面での活動が制限される中でオンライン化も進み、『ZOOM』による新しい手法も導入されました。

■ **ここ数年のなかでの運営上の苦労など**  
文化庁事業として、新たに多くの和文文化団体と連携をして大型の体験イベントを北海道から種子島まで十ヶ所で開催しました。不要不急と言われる中での地方での事業推進は本当に苦労しました。

■ **最近一番嬉しかった出来事**  
踊りに縁がなかった子供たちが、体験教室を経て、その後も継続して稽古を続けてくださり、今年初めて東京新聞社主催の全国舞踊コンクールに出場する事が出来ました。今後も経験を積み場として参加をしたいと思えます。

■ **伝統文化の継承における持論**  
協会の認定講師は20代から50代です。古典舞踊を基本として海外公演や舞台経験が豊富な若い指導者が直接教えることで、より身近な価値観や想いを次世代に深く理解させることができます。

■ **これからの展望**  
体験や趣味で終わることなく、伝統文化や所作など失われつつある和文文化全般が学べる学校と、卒業生が職業として常設公演が打てる劇場の創設が目標です。



一般社団法人  
日本のおどり文化協会  
理事長 飯田 栄志

### 活動スケジュール

2024年  
7月～12月 計9回の教室  
(各支部で10～20人程度参加)  
11～12月 支部発表会  
12月 本部合同発表会  
(川越と中野の2会場)  
2025年  
1月 教室  
(振り返り稽古・修了証授与)



本部合同発表会をなかのZERO大ホールで開催

### 教室参加者

対象：小学1年生～中学3年生

2017年度	17支部	365名
2018年度	40支部	500名
2019年度	53支部	800名
2020年度	55支部	375名
2021年度	19支部	267名
2022年度	30支部	500名
2023年度	20支部	350名
2024年度	26支部	350名

### 概要

日本のおどり文化協会は、日本の伝統文化を守りながら和文文化全体の裾野を広げたいとの思いで2014年に設立。日本舞踊のきっかけ作りとして、各支部の伝統文化親子教室事業の体験教室で半年間練習。その後、地元の近くの公共施設で支部発表会を開催。最後に本部開催の合同発表会を2箇所で開催しています。(以上参加費無料)体験教室終了後にサークル(有料)に誘導。(約25%が入会)その後、子ども舞踊団にステップアップして古典舞踊など習います。

### 関係者(関係機関)

【北海道】  
札幌市・札幌市教育委員会

【千葉県】  
流山市教育委員会

【埼玉県】  
所沢市教育委員会・富士見市教育委員会  
朝霞市教育委員会・入間市教育委員会

【東京都】  
中央区教育委員会・世田谷区教育委員会  
文京区教育委員会・墨田区教育委員会  
板橋区教育委員会・豊島区教育委員会  
練馬区教育委員会  
調布市教育委員会・八王子市教育委員会  
日野市教育委員会・稲城市教育委員会

【神奈川県】  
横浜市教育委員会

【京都府】  
京都市教育委員会

【沖縄県】  
那覇市教育委員会

200名規模の合同発表会を8都道府県で実施、  
2017年度から継続して全国展開する統括団体  
一般社団法人 日本のおどり文化協会

伝統文化親子教室から子ども舞踊団に入った方にお話を伺いました

卒講師訪問インタビュー

【Iさん】



小学5年生/4年目

【Nさん】



小学5年生/5年目



2人で石橋を披露

■教室に通い始めた理由は？

【Iさん】教室に通っている友達に教えてもらいました。

【Nさん】姉が先に教室に通っていて発表会を見に行った時に先生に誘われました。

■難しい事は？

【二人とも】振りも難しいけど、先生から景色を想像しながら踊る事を要求され、色々な風景を思い浮かべて踊るのが難しいです。

■これからの目標は？

【Nさん】勉強が好きなので、海外へ行った時に日本の文化を伝えられたら良いなと思っています。

【Iさん】僕も同じで勉強が好きだから、海外と日本の踊りを比べたり、海外にもっと日本の踊りを知ってもらいたいので広めていきたいです。

【Aさん】



小学5年生/2年目

【Cさん】



中学2年生/8年目



3人で秋の色種を披露

学校でチラシを貰って体験教室に入ってから舞踊団に入りました。先生からは二つの動きの意味を考えることで、綺麗な動作ができるかと教わっています。目標は、人の3倍位の早さで上手くなって、先生になつて着物を着て踊る楽しさを教えて行きたい。大変かもしれないけど乗り越えた後が楽しいからやってみたいです。

【Wさん】



中学2年生/7年目

ら面白そうだから入りました。振りなど綺麗に踊れるようになって一人です。舞台に立ちたいと思っています。

レッスンを受けて上のレベルになって舞台に立ちたいと思っています。

【Bさん】



小学5年生/2年目

【Yさん】



小学6年生/3年目

【Nさん】



小学6年生/6年目

【Iさん】



小学6年生/7年目

支部の合宿で舞踊団募集のチラシをもらってやってみたく思った。もともと上手になって舞踊団に入っていない子に「入りたいな」と思わせる踊りをしたいと思っています。

友人のお姉さんが舞踊団にいて格好良いと思いい、私も格好良いと思ってももらえる存在になりたい！と思って入団しました。もともと上手になってコンクールに出たい！と思っています。

舞踊団は一人一人が自分を出して輝いていて個性を重んじる感じが素敵と思いました。周りにもっと日本舞踊が人の個性を輝かせる存在であることを知ってもらえるようになりたいと思います。

受講生訪問インタビュー

【Mさん】



中学3年生/7年目

教室に通い始めたのは、学校で配られたチラシを母が見て一度体験してみようかと母から勧められたからです。

始めは着物の着方も判らなくて先生に頼りつきりでおどしていましたが、合宿や大会などのイベントに参加していくうちにどんどん楽しくなってきました。いまでは学校の友人によく自慢しています。今、受験期で大変ですが、今後も続けて行きたいと思っています。



藤娘を披露

【Hさん】



小学6年生/8年目

日本舞踊をやっていた母に勧められて教室に通い始めました。教室では学年の違うお姉さん達と仲良くなれて楽しいし、踊りの基礎や歩き方などが学べて良かったと思います。このまま進んでいって上達して行けたらいいな！と思っています。



屋敷娘を披露

【Oさん】



中学1年生/8年目

姉が教室に通っていて面白そうだから始めました。最初から1年間通してやってみたいと思います。ば上のクラスにチャレンジしようと思つて今は舞踊団にも入っています。時間があれば曲を聞いたりして日常的に日本舞踊に接していきたいと思っています。将来は日本舞踊のコンクールに出たいので毎日練習したいです。



花売りを披露

【Kさん】



中学2年生/6年目

で次のクラスへステップアップして今は舞踊団にも入っています。今は先輩みたいに踊りだけでなく着物の着付けも出来るようになって、日本舞踊は最後までずっと続けて行きたいと思っています。



三十石夜船を披露

活動風景



稽古風景

伝統文化親子教室での稽古は、主に公共の施設を利用して行ないます。受講料は徴収していません。



稽古風景



稽古風景

保護者はロビーまたは別室で待機してもらい、生徒のみで集中して稽古を行います。



稽古風景

年末に開催される、各支部との合同発表会に向けて、各自の演目を仕上げていきます。



稽古風景

伝統文化親子教室から上のクラスに進んだ方にお話を伺いました

受講生訪問インタビュー

【Mさん】 中学3年生/7年目

教室に通い始めたのは、学校で配られたチラシを母が見て一度体験してみようかと母から勧められたからです。

始めは着物の着方も判らなくて先生に頼りつきりでおどしていましたが、合宿や大会などのイベントに参加していくうちにどんどん楽しくなってきました。いまでは学校の友人によく自慢しています。今、受験期で大変ですが、今後も続けて行きたいと思っています。

【Hさん】 小学6年生/8年目

日本舞踊をやっていた母に勧められて教室に通い始めました。教室では学年の違うお姉さん達と仲良くなれて楽しいし、踊りの基礎や歩き方などが学べて良かったと思います。このまま進んでいって上達して行けたらいいな！と思っています。

【Oさん】 中学1年生/8年目

姉が教室に通っていて面白そうだから始めました。最初から1年間通してやってみたいと思います。ば上のクラスにチャレンジしようと思つて今は舞踊団にも入っています。時間があれば曲を聞いたりして日常的に日本舞踊に接していきたいと思っています。将来は日本舞踊のコンクールに出たいので毎日練習したいです。

【Kさん】 中学2年生/6年目

で次のクラスへステップアップして今は舞踊団にも入っています。今は先輩みたいに踊りだけでなく着物の着付けも出来るようになって、日本舞踊は最後までずっと続けて行きたいと思っています。

藤娘を披露

屋敷娘を披露

花売りを披露

三十石夜船を披露